

採血からわかる健康状態～腫瘍編～

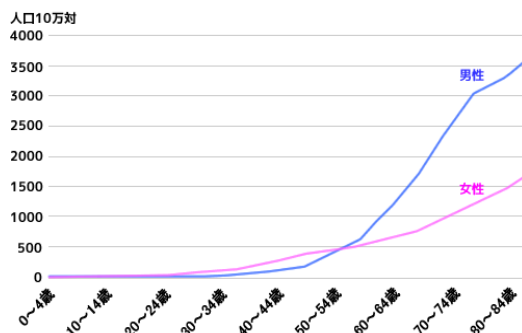


私たちが年に1回、定期的に職場や病院などで健康診断を行い身体に異常がないか調べますが、ある特定の病気に絞って調べる検診もあります。

がんについては年齢が高くなると発症率も高くなりますが、女性では若いうちでもがんになる可能性があります。

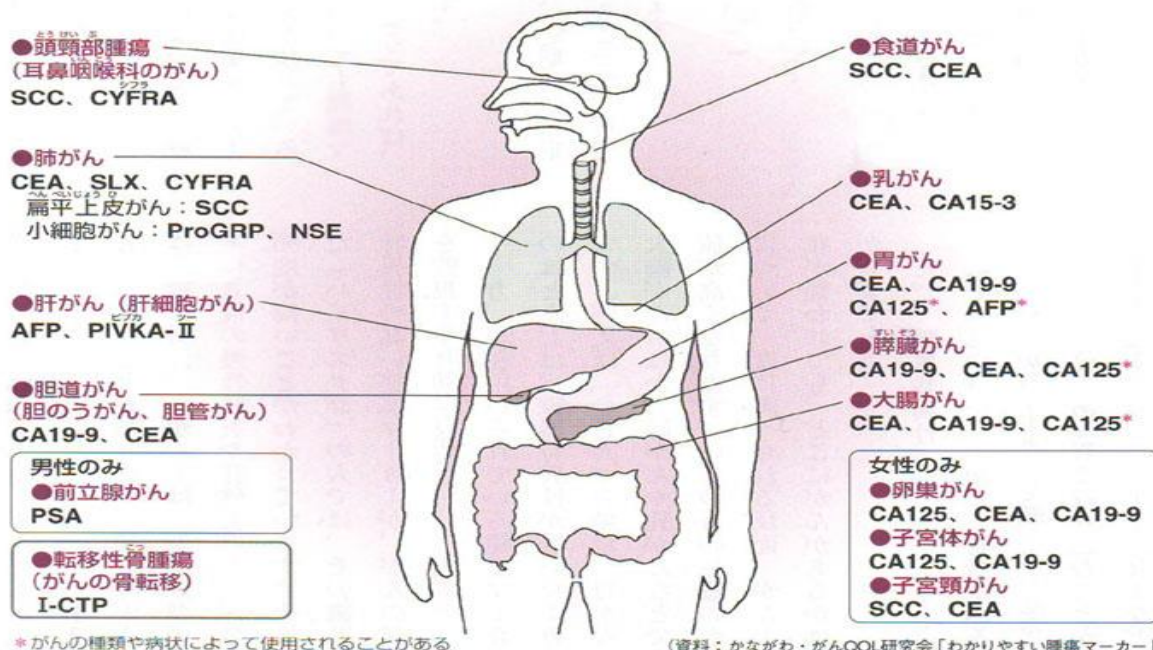
↓ **がんの年齢階級別の発症率**

がん検診は、がんを対象にした検査です。胃や大腸、肺、乳房、子宮などがんができる部位がことなれば、がんの特徴も変わってきます。ここではがんを対象とした血液検査の腫瘍マーカーについてお示します。



がん対策情報センター「がん罹患率～年齢による変化」

腫瘍マーカー ⇒ がん細胞がつくる特殊な物質 (がんが増えると血中濃度が高くなる)



どのがんにもどの腫瘍マーカーが増えるか、その基準値を定めてその数値が基準値を超えていた場合にはがんの可能性を疑います。

ただし必ずしも精度が高いとは言えないので、腫瘍マーカーの値だけではがんの診断ができません。検診での他の血液項目や画像検査等と合わせて活用しましょう。